

卷之三

第七八号
二〇〇〇年七月一日
免行元 深町 町内会連合会
連絡所 六三一三八八七



ふかまちの自然への想い (1)

小さな冬の使者
—ジヨウビタキ—

小木龜一

原稿依頼を定期的に一千文字程度でと、再三電話をいただいた。お世話になった恩返しになるかも知れないと応諾することにしましたが、さてさてどんなことになるか、しばらくお目をお貸しください。

秋深まるこの時期になると小学校の裏、「トトロの森」の看板あたりを注目していた。もううきてもいい頃だけれど耳を澄ます。「ヒックヒックヒック」と気に入る、特徴ある泣き声を待つていた日々が懐かしい。初見は毎年このごろであった。林の端に見え隠れるその姿を見つけると、子どもたちといっしょに窓越しで楽しんだ。窓の外に聞こえるわけでもないのに、ひそひそと「今年も来たぞ」と喜び合った思い出。

「近東伊太利航路」の思い出

秋本
浚之

大連から門司港に向かう朝鮮半島の西側の黃海を南下すると、今度は、海岸局は長崎局（JR）の通言工リアより、山口県

アに入ります。アの角島無線局（JTS）のエリ

難信号SOSを傍受したことで
した。

受けた場合は、それらの緊急通信が終了する迄は、関係者（遭難船・救助船）以外は電波の発信を差し止められて居ります。

暗闇の中で、岩礁に乗り上げ船中に浸水の模様を予備電源で刻々と放送し、船員の救助を求める

も近いと思われる船は、これに応答し、救助に向かわなければなりません。

通信を傍受しているだけです。救助に急行した船より暗闇の中で、ライトを照らし乍ら接近しているので、頑張つてもらいたい旨を打電して、様子は悲壮なものを覚えます。



これらは、その様子を
又、刻々船長に報告し、乗組
員に知らせます。

水が湧き出て流れている
滝、その川が流れる美し
い山があります。
そこへ、六歳の娘と散
歩に行つた時のこと、「私
が大きくなつても、この山と

夢

あ：「と、娘に言われました。」

— 1 —

1

◆子ども会 下組
◆廃品回収 期日未定
▼尚寿会 一
▼忘年会 一
—— 期日未定

★ 金堀 富士枝様 八三歳 十八日

細川の母・土手まつ

席 望 换 婦 の 対 応 は 好 感 度 I. す」と名乗ってほしい。同時に受信者が「〇〇です」の金融機関を訪れた。普通四五人の職員が居られるのに、当人は男性一人。電話中でしたのが、先方に断わり私に対応してくれた。そのうちに若い女性職員が他室から出てこられたが、「いらっしゃいませ」の声がない。この金融機関では、窓口職員の接客教育がなされているのだろうか。▼十月二十三日午前十時頃、所用で三原中央公民館を訪れた。生憎駐車スペースはゼロ。車の出入りは可能と判断して中央に駐車しようとした。すでに駐した車があなで。ところが、スリツにネクタイ姿の四十歳前後の男性が現れ、左ドアに手を掛け開けようとした。二・三分で「すから」と断ったが、話の応対や接客態度等は業種や個人によつて差があるとは思うが、マナーの面から考えてみたい。自分が不快であることは他人も同じ。それがビジネスを伴うものであれば一考を。中央公民館の駐車場監視人から受けた私の感じは、「おい・こら」であつた。設備投資以上に重要視されるのが「教育投資」。城は石垣でも、組織は人でもつ。